

西川甚五郎邸・史料館

この住宅は現在では寝具などの繊維製品で有名な「西川」の創業者一族の家である。創業者の西川仁右衛門（1549-1644）は、17 歳で商店を創業した。36 歳のとき、南津田村から八幡（現・近江八幡市）に移り、八幡山城の工事を監督した。その 2 年後、八幡に蚊帳や畳表を売る店「山形屋」を開き、17 世紀以降、江戸で商売をして巨利を得る会社の礎を築いたのである。

1587 年から 1942 年まで、西川家の人々がこの家に住んでいた。仁右衛門の四男で、1628 年に家督を継いだ西川甚五郎（別名「甚五」、1582-1675）の名を冠する。甚五郎は、蚊帳を萌黄色に染めて見栄えをよくするなど、巧みな販売戦術で将来の西川の成功の礎を築いたと言われている。

また、敷地内には西川家の歴史を伝える史料館や、お土産や西川の商品を販売する売店がある。